



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 117) uniwish44号
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2024年4月)
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 Facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



紛争地域でくらす子どもたちが命の危機にさらされています。

**ガザ：戦闘開始から半年
 避難強いられる子ども約85万人**



ガザ人道危機 緊急募金

命の危機にさらされるガザの子どもたち

© UNICEF/UN1495568/ZAGOUT

【2024年4月7日ガザ地区発】

子どもはガザの人口のおよそ半分を占めており、約85万人の子どもが避難を強いられています。彼らは、南へ南へと追いやられ、狭い土地に多くの人が押し込められて過密状態にある場所で、食料も保護も、生きていくために最低限必要な物もなく暮らしています。

◆目を追うごとに悪化する子どもの栄養状況

南部ラファにあるユニセフ支援の小児科のテントで、上腕計測メジャーで栄養状態をチェックされている3歳のアクラムちゃん。(ガザ地区、2024年2月15日撮影)



© UNICEF/UN19935/EiBaba

◆何百台もの国連と国際NGOのトラックが、ガザへの入域を足止めされる



© UNICEF/UNI525580/FCDO

避難する家族や子どもたちのために、ヨルダンからトラックで届いたユニセフの毛布、テント、マットなどの支援物資。(ガザ地区、2024年2月23日撮影)

**ウクライナ：戦闘激化から2年
 計5千時間(7ヶ月)を地下シェルターで過ごす子ども
 14歳~34歳の4分の3に心理的サポートが必要**

【2024年2月23日ジュネーブ/キーウ発】

ウクライナの戦闘最前線の都市に暮らす子どもたちが、空襲警報が鳴る中で地下や地下鉄の駅に避難を余儀なくされた時間は、この2年間で3,000時間から5,000時間に上り、これは4カ月からほぼ7カ月に相当します。

2022年2月に戦争が激化して以来、ザポリージャ州とハルキウ州では約3,500回、ドネツク州では約6,200回の空襲警報が出るなど、執拗な攻撃が子どもたちのメンタルヘルスと学習に壊滅的な影響を与えています。

激しい攻撃によって、多くの家庭が暖房や水、電気を利用できなくなったため、何千人もの子どもが、寒くてじめじめした地下室に避難しなければならず、冬場はとりわけ悲惨です。



© UNICEF/UNI522096/Filippov
 ドネツクから親戚のいるドニプロへ向かうバスに乗る10歳のミキータさんと6歳のセルヒーさん兄弟。避難する前日にユニセフから受け取った冬服を着用している。(ウクライナ、2024年1月撮影)



© UNICEF/UNI524989/Filippov
 ハルキウの地下鉄の駅にあるユニセフの支援により設置された学校で、授業を受ける子どもたち。(ウクライナ、2024年2月21日撮影)

◆ウクライナ紛争激化から2年 ユニセフ巡回チームが行う メンタルヘルス支援

【2024年3月5日パウロフロード
 (ウクライナ) 発】

ウクライナでの紛争激化から2年目を迎え、子どもたちや親、養育者はメンタルヘルスに深刻な影響を受けています。ユニセフは、245の巡回チームの活動を通して、子どもたちやその家族がメンタルヘルスへの影響に対処できるよう支援を提供しています。

2023年、ユニセフの専門家は8万6,000人の子どもと10万6,000人以上のおとなに支援を提供しました。(上記写真:クリスマス会)



子どもの権利条約 ってなあに？

Convention on the Rights of the Child



子どもの権利条約は、子どもは「弱くておとなから守られる存在」という考え方から、それだけではなく、子どもも「ひとりの人間として人権(権利)をもっている」、つまり、「権利の主体」だという考え方に大きく転換させた条約です。子どもを権利の主体ととらえ、おとなと同様にひとりの人間としてもつ様々な権利を認めると同時に、成長の過程にあつて保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めているというのが、子どもの権利条約の特徴です。

★子どもの権利条約はすべてのユニセフの活動の基盤です。

ユニセフは、あらゆる場所で、すべての子どもの権利が実現される世界をめざして活動しています。

ユニセフは、国連総会によって、子どもの権利を守り、子どものもつてうまれた能力を十分に発揮できるように活動するという役割を与えられた機関です。(ユニセフの使命)

★子どもの権利条約の4つの原則

子どもの権利条約の基本的な考え方は、次の4つで表されます。それぞれ、条文に書かれている権利であるとともに、あらゆる子どもの権利の実現を考える時に合わせて考えることが大切な、「原則」であるとされています。

これらの原則は、日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられています。

①差別の禁止



②子どもにとって最もよいこと



③命をまもられ成長できること



④子どもの意見の尊重



「ユニセフ子どもにやさしいまちづくり」(CFCI)を実践している自治体紹介

ユニセフは、「みんなが幸せになれるまち」をつくるために、「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」を推進しています。

CFCIとは、子どもと最も身近な行政単位である市町村等で、子どもの権利条約を具現化する活動です。

その特徴は、“まち”の人々がみんなでみんなの“まち”を作っていくこと、とりわけ、子どももまちづくりの主体、当事者として位置付けることです。

現在日本では、5つの自治体(ニセコ町、安平町、富谷市、町田市、奈良市)がユニセフ日本型CFCI実践自治体として、取り組みを進めています。



ユニセフの子どもにやさしいまちづくり事業



＜下記は各市町の事業の趣旨＞

- ◆ニセコ町 ~子どもの力を借りて、社会を元気にする~
- ◆安平町 ~子どもたちが主人公のまちを目指して~
- ◆富谷町 ~子どもにやさしいまちは誰にでもやさしいまち、そして「住みたくなるまち日本一」へ~
- ◆町田市 ~「子どもの意見を聴いて推進する」子どもにやさしいまちづくり~
- ◆奈良市 ~すべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望をもって成長することができるまちに~

★日本でも、2023年4月から「子ども家庭庁」が発足し、「こども基本法」が施行され、子ども真ん中の社会の実現に向けての施策づくりが始まりました。

★佐賀県ユニセフ協会も、子どもの意見交換の場「ユニセフ子どもサミット」を開催しました。👉

2023.11.12 ユニセフ「子どもサミット」in 佐賀市



- *テーマ：～持続可能な子どもにやさしいまちづくり～
- *日時：11月12日（日）9：00～12：00
- *会場：佐賀新聞社5階 大会議室
- *主催：佐賀県ユニセフ協会 *共催：佐賀市教育委員会
- *参加者：佐賀市内の中学生と高校生 51人 【26校の協力】



◆佐賀県ユニセフ協会では、2023年4月に「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」も施行されたことを好機と捉え、今、中・高生が日々感じている“私たちのまち”への思いを出し合い、持続可能な『子どもにやさしいまちづくり(CFCI=Child Friendly Cities Initiative)』について意見交換をする、“ユニセフ「子どもサミット」in 佐賀市”を企画しました。テーマは、「**子どもの権利条約**」や「**SDGs17の目標**」をもとに『持続可能な子どもにやさしいまちづくり』について、中・高生が意見交換をして9つの提言にまとめました。

そして、11月27日（月）、中・高生の代表者17人が、佐賀市長へ採択した9つの提言を手渡しました。

11月12日（日）サミット当日

11月27日（月）坂井英隆市長へ「提言」を渡しお願いした。



各グループでは、それぞれのテーマに課題意識を持った生徒たちが事前に考えてきた意見などを交流した。



中高生の代表17人が、9つの提言を坂井英隆市長へ主旨を説明しながら手渡した。



コーディネーターの久木田純先生と手話通訳ボランティアさんが進行をされている様子



採択した「9つの提言」

11月12日（日）サミット当日 参加者の集合写真

- 提言① 学校で男女平等に向けた取り組みを今のうちから進め、将来の安心できる子育て環境につなげてほしい。
- 提言② ユニバーサルデザインの視点で歩道の整備をしてほしい。
- 提言③ 私たち一人一人が地域の一員であるという意識を持てるように地域社会での交流を推進できる仕組みを構築してほしい。
- 提言④ 子どもの声と実態を踏まえ、UDの視点で困難な点を改善できる必要な支援を行ってほしい。
- 提言⑤ 若い人が意見を言える場を作り、より良い町をつくるために“子ども議会”を作ってほしい。
- 提言⑥ 若者の若者による若者のためのイベントを実施するために行政にサポートしてほしい。
- 提言⑦ 空き地などを整備し、普段は緑が多い公園として利用し、洪水の被害が起きた際に、水をためることができる場所にしてほしい。
- 提言⑧ 今ある資源を使って場所の確保と活性化で人手を増やしてほしい。（空き家を見童館に、駅の高架下などの空き地を活用してイベント開催）
- 提言⑨ 子どもの貧困を解消するために子どもだけでなく、家族も含めた子どもを取り巻く人々を包括的に支援するための仕組みの整備と広報・周知をしてほしい。（フードバンク、子ども食堂など）



実施にあたっては、佐賀市内全ての中学校、高等学校、特別支援学校に参加を募り26校から51人の中・高生の希望がありました。

コーディネーターには、**関西学院大学教授**であり、**元国連職員**の久木田純先生をお招きし、**ファシリテーター**としては、**佐賀大学**や**西九州大学**の学生さん方にも協力していただき、提言作成に多大なご尽力をいただきました。皆様に感謝申し上げます。



○8月9日(日)長崎Vファーレン“ファンの集い”
 ◆テーマ:ファンの集いへ「平和学習」
 「ウクライナ武力侵攻の中で苦しむ子ども達の現状とユニセフからの支援 10:00~11:00
 <スタジアム建設現場視察研修 会場>



○9月13日(水) ドリームパーク神崎市立西郷小学校
 15:00~16:30 <西郷小学校>
 「やってみよう切手整理ボランティア」19名



○9月22日(金) ◆佐賀清和中学校生徒会から
 文化祭での収益金 ¥168,274円 を募金贈呈
 *支援物資として贈られた<清和中学校玄関>



○10月5日(木) おへそこども園 「ユニセフ教室」10:15~11:00
 テーマ:「みとめる」(人権に関する話)
 対象幼児:年長児 40人(生活発表会に向けて事前学習)



○10月11日(金) 佐賀女子短期大学子ども未来科 1年生 出前講座
 テーマ:「世界の子供達と教育」「子どもとグローバル」
 対象学生:1年生 100人
 <佐賀女子短期大学大講義室>

○10月29日(日) 2023 さが国際フェスタ in 神埼 11:00~16:00
 <会場:神崎市役所 駐車場広場>

《ユニセフブース内容》

- ◆『パネル展示』「ウクライナ危機から1年」「トルコ・シリア地震」
- ◆『SDGsの広報と体験コーナー』「缶バッジづくり」「SDGsわなげ」「SDGsスマートボール」



新規事業

○11月12日(日) ユニセフ「子どもサミット」in 佐賀市 佐賀新聞社大会議室 【詳細は P3】
 ★サミットテーマ:『子どもにやさしい持続可能なまちづくり』
 ★佐賀市内の26校から、中学生、高校生 51名 参加



○11月14日(火) 佐賀市立城北中学校 1年生 「ユニセフ教室」
 テーマ:「SDGs学習」
 対象:1年生 117人 先生方5人
 <城北中学校体育館>

○12月3日(日)~12月25日(月)まで 第45回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」街頭募金活動【詳細は P7】
 (11店舗で、13回実施)

○12月11日(月) 佐賀県立大和特別支援学校高等部「生活単元学習」
 テーマ:国際理解及び協力における日本
 対象生徒:高等部 3年生 40人 先生方6人
 内容:ユニセフ学習を通して、地球上の課題を知り、自分の生活の中で「人権」や「SDGs」について考える。



○12月19日(火) 日本語学校弘堂国際学園 募金贈呈 事務所訪問 13:00
 <内容>★文化祭での売り上げの一部を募金 ¥20,000円
 ★ユニセフから募金の使途についてや支援物資についての説明
 <佐賀県ユニセフ協会事務所>



○2月8日(木) 唐津市立佐志小学校「ユニセフ教室」10:30~12:00
 テーマ:国際理解、多文化共生理解
 「ユニセフと世界の友達」
 対象児童:全校児童270人 + 保護者
 <佐志小学校体育館>
 募金:¥18,079円(ガザ地区人道危機募金)



○2月15日（木）佐賀市立新栄小学校 社会科「ユニセフ教室」13：35～15：00
 テーマ：「ユニセフの仕事」「世界の子どもたちの状況」
 対象児童：6年生66人 先生方2人 <新栄小多目的教室>



○2月22日（木）佐賀県立ろう学校から 使用済インクカートリッジの贈呈
 事務所訪問 10：25～11：15
 生徒2人、引率の先生方3人
 <内容>★使用済インクカートリッジの贈呈
 ★ユニセフ学習（支援物資の説明）

（佐賀県立ろう学校）



○3月5日（火）佐賀県南部郵便局長会様から使用済切手の贈呈 14：00
 ＊使用済み切手 42kg <佐賀県ユニセフ協会事務所>

○3月5日（火）佐賀県商工会女性部連合会様から使用済切手等の贈呈14：00
 ＊「使用済み切手」2,7kg、「書き損じはがき」160枚の寄贈
 <佐賀県ユニセフ協会事務所>



○3月14日（木）佐賀県立盲学校から使用済切手・インクカートリッジの贈呈
 事務所訪問 10：00～11：00
 生徒4人、引率の先生方3人
 <内容>★使用済インクカートリッジの贈呈
 ★使用済み切手の整理 体験
 『自分たちができるボランティア』



○3月15日（金）JA佐賀県女性組織協議会様より「愛の募金」¥28,714円贈呈12：00
 ＊前日にはJA佐賀県各女性地域から書き損じはがき
 ＊使用済切手やインクカートリッジ30箱も寄贈
 （使用済切手 14 kg、インクカートリッジ 4675個、トナー85本
 書き損じはがき 2124枚） <佐賀県JA会館>

新規活動



○3月29日（金）『春休みやってみようボランティア』13：30～15：00
 ◆内容：使用済み切手の整理
 ◆応募での参加者：中学生・高校生 + 先生 33名
 （致遠館中学校2人、佐賀北高校20人、佐賀清和高校6人、
 佐賀西校2人、佐賀学園2人+先生1人） <市立図書館>



ご支援
 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院・智仁会、コープさが生活協同組合、JA佐賀県女性組織協議会、(株)田口電機工業、浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟、グランデはがくれ、アルタ高木瀬店、(株)佐賀NOK、平尾建築コンサルタント事務所、麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科、多布施クリニック、ユニセフを支援する母子草、佐賀ふるくま賑わい推進協議会、佐賀建築士事務所協会、EXCELアムール店、ヘアー&フェイスドゥース、佐賀市文化会館、アルタ開成店、恵比寿鍼灸整骨院、えんぴつ館、サンシャレー、三瀬そば、ホテルニューオータニ佐賀、ふくしま薬局通小路店、西国御領風羅坊、菖蒲ご膳、みねまつ整骨院、輔仁会内野産婦人科、(株)北島、多布施クリニック、進税理士事務所、矢山クリニック、旅館あけぼの、イエローハットモンテ太陽本庄店、イエローハットモンテ太陽医大通り店、ようどう館佐賀校、山小屋ラーメン南佐賀店、ようどう館大和校、川崎自工、手打うどんそば夢心、いっせい麺処、村岡屋駅南本町店、村岡屋卸本町店、村岡屋高伝寺店、天山カントリークラブ・北コース、れすとらん志乃空港店、最所法律事務所、佐賀ギター音楽院、れすとらん志乃県庁店、H&M EXCEL W.E.N.S、木原慶吾サウンド・スピリッツ、北川歯科、

唐津市立佐志小学校、佐賀市立東与賀小学校、日本語学校弘堂国際学園、白石町立有明西小学校、武雄市立御船が丘小学校、神崎市立西郷小学校、佐賀市立若楠小学校、川副子ども太鼓、佐賀県立小城高等学校2年生

佐賀市立図書館、コープさが新栄店、JSA中核会佐賀支部、大塚製薬K・K、らいふ薬局木原店、県民協働課、多久仏婦人会、第一生命労働組合、(有)蓮池衛研工業、サンテ溝上病院、市民活動プラザ、すぎの子文庫、ゆめぶらっと小城、本庄公民館、エコプラザ、明治安田生命保険相互会社、佐賀県南部地区郵便局長会、佐賀新聞社、武井電機、トス市民活動センター、佐賀県商工会女性部連合会、佐賀銀行文化財団、佐大医学部基礎研究棟、佐賀県婦人地域連絡協議会、佐賀県立ろう学校、医療福祉専門学校緑生館、佐賀県立盲学校、

（順不同：2023年10月1日～2024年3月29日）

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。



2023年度佐賀県ユニセフ協会の活動の実績

募金活動



● 2023年度 佐賀県ユニセフ協会を通して本部へ送金された年間募金総額は、
 ￥7,695,018 円 でした。(2023.1.1～2023.12.31)

● 2024年1月31日、本部からの2023年度の募金総額の最終報告が届きました。
 日本ユニセフ協会を通してまっすぐユニセフ佐賀県口座K1-410に送金いただいた
 佐賀新聞社善意銀行様などの分を合わせると、**2023年度最終の年間募金総額は、
 ￥7,829,170円**となりました。ご支援に感謝します。(uniwish NO44号で最終報告)

広報活動 ユニセフ教室など

★ユニセフ教室やユニセフ講話の講師派遣・事務所訪問実績 ★

校種	講師派遣(回)					協定地域組織への訪問(回)					イベント	合計
	小学校	中学校	高校	大学一般	小計	小学校	中学校	高校	大学一般	小計		
回数	9	6	1	4	20回	2	2	4	4	12回	20回	52回
人数	872人	649人	39人	252人	1812	3人	9人	16人	15人	43人	2181人	4036人

- * イベントや募金贈呈式での講話などを含む(ミニ研修など)。大学生は一般に含む。
- * 事務所訪問は、調べ学習・活動前の事前学習・情報収集・活動相談等を含む。
- * イベントは、ユニセフシアター、SDGs絵画展、SAGA国際フェスタ、ハンド・イン・ハンド募金活動等



★8/9 長崎Vファーレンファンをつどい



★8/17 佐賀県立小城高等学校2年生(児童労働)



★10/5 おへそこども園「みとめる」

賛助会員



佐賀県ユニセフ協会では、県内でのユニセフ支援の輪を広げていくために、
 ユニセフの賛助会員になって支援して下さる方を募集しています。

◆ 佐賀県登録の賛助会員様は、佐賀県ユニセフ協会の運営を支える大きな柱です。
 近年、賛助会員様の高齢による退会などの連絡が入るようになってきて、徐々に会員数が減少しています。
 賛助会員会費の50%が、佐賀県ユニセフ協会の運営仮受金となります。また、賛助会費は寄付金控除
 (40%)の対象になります。今後も賛助会員拡大のために様々な形で広報をしていきたいと思ひます。

過去5年間の 賛助会員数

◆ 以下は、佐賀県で登録をしていただいている 一般賛助会員(1口5,000円)様と
 学生賛助会員 (1口2,000円)様、 団体賛助会員(1口100,000円)様の数です。

年度	団体会員	一般会員	学生会員	会員数合計	会費総計
2019年度	2	151	22	175	¥1,186,000
2020年度	2	150	22	174	¥1,189,000
2021年度	2	145	21	168	¥1,149,000
2022年度	2	145	21	163	¥1,139,000
2023年度	4	155	22	181	¥1,431,000

★(医)智仁会 佐賀リハビリテーション
 病院 様

★峰公認会計士・税理士事務所 様

★(有)吉原医設 様

★(株)木村情報技術 様



ユニセフ賛助会員募集

佐賀県ユニセフ協会

12/3(日)～12/25(日) 第45回 ハンド・イン・ハンド募金活動

「第45回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド」
 テーマ：「すべての子どもに予防接種を」
 ～今、子どもたちの命を守る行動を！～

HandinHand in 佐賀県

第45回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金
 キャンペーン

＜主旨＞

2019年から2021年の間に合計6,700万人の子どもたちが予防接種を受けられず、112カ国で接種率が低下しています。

また、コロナ禍の直前または最中に生まれた子どもたちは、通常であれば既に予防接種を受ける年齢を過ぎており、そうした子どもたちに予防接種を行い、致命的な病気の感染拡大を防ぐための緊急対策を講じる必要性は増えています。ユニセフは、すべての子どもたちが健康に成長し、その可能性を最大限に発揮する機会を得るために、必要なワクチンを接種できるようさらに取り組みを強化していきます。



© UNICEF/JUN0757753/Souleiman

★大型店舗などで街頭募金に取り組みました。(11店舗で13回実施)

2023年度は、12月3日から12月25日まで毎週日曜日に13回街頭募金活動を実施しました。佐賀市内の20の学校や団体の皆さんや一般の方が、のべ175名も参加してくださいました。



2023年度の ハンド・イン・ハンド 募金総額 **¥2,222,023円** となりました。



【12/2 ゆめタウン佐賀店(1回目)】



【12/3 ゆめマート佐賀店】



【12/3 フレスポ鳥栖店】



【12/3 イオン佐賀店
 スーパービバホーム】

毎年、柳川市立矢ヶ部小学校の児童、先生、教育委員会の方が参加してくださいます。



【12/10 コープさが新栄店】



【12/10 イオン佐賀大和店
 ホームワイド佐賀店】

可愛いお子さんから高校生、大人の方まで声を合わせて寒さに負けず、募金活動。



【12/17 佐賀玉屋】

ボーイスカウトの皆さん、元気にボランティア、ありがとう。



【12/17 モラージュ佐賀店】

浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟の皆様が駅前たくさん募金を集めてもらいました。



【12/24 佐賀駅周辺 街頭】

クリスマスの日の募金活動、子どもたちがみんな幸せになりますように。



【12/25 ララベル鹿島店】



【12/17 ゆめタウン佐賀店(2回目)】

unwish の仲間たち!

コープさが生活協同組合 理事の皆さん



—佐賀市—



コープさが生活協同組合の理事と職員の皆さん【集合写真】

【50年の歩みを繋ぐコープさが生協の概要】

生協は、消費者が自らの暮らしと健康を守るため、出資金を出し合い、利用、運営していく、営利を目的としない協同の組織です。事業区域は佐賀県内全域、県内を大きく4つの区域に分けてよい商品を組合員に提供しています。現在の組合員の数は72,102人(2月末)です。

佐賀市民生活協同組合が、佐賀市を中心に「子どもたちにより良く安心できる牛乳を飲ませたい」というお母さんたちの小さな願いと運動がきっかけで1971年に発足しました。杵島消費生協は杵島炭坑で働く労働者の生活を守るために、1959年に労働者の手により職場に発足した生協が前身です。コープさが生活協同組合は、1991年に佐賀市民生活協同組合と杵島消費生協がひとつになって生まれました。

- 1959年 杵島消費生協設立
- 1971年 佐賀市民生活協同組合設立
- 1991年 コープさが生活協同組合発足
- 2021年 コープさが生活協同組合設立50周年を開催

組合員様からの募金のご支援に感謝!

コープさが生活協同組合は、佐賀県ユニセフ協会にとって29年の長い間、深い繋がりと、大きなご支援をいただいている唯一無二のパートナー団体です。

コープさが生協のユニセフ募金は、1984年から始まり、鳥栖地区での「1円玉募金」や「ユニセフバザー」など組合員による様々な募金活動が行われてきました。1994年からは、指定募金(ベトナム、ネパール、東ティモール)の取り組みが始まり、1997年からは「お年玉募金」の取り組みとともに、生協の注文カードでも様々な緊急支援への募金が行われるようになりました。

2023年度のコープさが生協の組合員からの年間募金額は、**¥2,100,599円**でした。

これまでの募金総額は、**¥34,911,329円**にもなります

- * 東ティモール指定募金 ¥457,900
- * ウクライナ緊急募金 ¥729,542
- * ガザ人道危機募金 ¥495,020
- * リビア洪水募金 ¥418,137

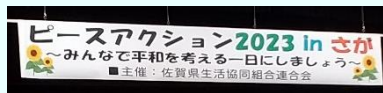


コープさが生活協同組合募金をユニセフ中尾清一郎会長(右)へ贈呈する松本美和子会長(左)

様々なイベントでユニセフとの深いつながり

佐賀県生協連の主催イベントの「ピースアクション」には、共有する『平和』を願う思いから、毎年、ユニセフは募金活動や講話・パネル展示での広報活動などで参加をしています。

また、「未来をひらくSDGsフェア」では共催で参加しました。一般市民に広くSDGsのテーマを楽しく分かり易く伝え、一人ひとりが実践できることを考えてもらう場とするため『さがから始めよう! もっと身近にSDGs』をコンセプトに、映画上映や海と森の万華鏡づくり、エンカル商品の展示、SDGs輪投げなど様々なブースがありました。



「未来をひらく SDGsフェア」(2022.11..27)



《松本美和子会長様からのコメント》

★全国の生協では、スローガンである「平和とより良い生活のために」を実現するために、世界の子どもを支援するユニセフ支援活動として、組合員の皆様と募金活動を続けています。

コープさが生協ではユニセフの事業活動がなぜ必要となるのか、世界が抱える問題について理解を深めていくための学習企画を重視しながら、これからも活動と支援を進めて行きたいと思っています。

(原稿提供: 会長 松本美和子さん 取材: 江島きよ子)